

大学院東アジア研究科 カリキュラム・マップ

|                |  | カリキュラム・ポリシー(CP)   |   |  |  |   |                                      |  |
|----------------|--|---|---|--|--|---|--------------------------------------|--|
|                |  | 1. 1年次には研究者行動規範を通じて研究上必要とされる行動規範について正しく理解するとともに、研究行動規範に沿った研究遂行の意義と必要性を自覚する。 | 2. 1年次には基盤演習を通じて、自立的に研究を遂行するために必要となる専門知識について深く理解していることを確認するとともに、学術的な手段・方法に則って論述し、適切に表現する技法を身につける。 | 3. 2年次には学位論文作成計画書を指導教員の指導の下に作成して学位取得に至る研究計画を指導教員と共有するとともに、プロジェクト演習と学位準備論文報告会を通じて研究計画の進捗状況と課題を確認しつつ、研究を計画に従って進行させる。 | 4. 基盤演習・プロジェクト演習を通じて、多様な領域の複数教員からの教示・助言を受け、専門分野にとどまらない複眼的視野を獲得し、あわせて東アジアの地域的特性を敬意を持って深く理解する。 | 5. 1～3年次の特別研究を通じて、研究行動規範に沿った正しい研究態度を身につけ、当該研究分野の研究に必要な方法を理解するとともに、必要な技能を習得し、かつ研究成果を論理性・首尾一貫性のある形で表現する能力を獲得する。 | 6. 特別講義では専門知識を深め、あるいは不足する知識や技能を獲得する。 | 7. 言語コミュニケーション科目は外国語や日本語のコミュニケーション能力の向上が必要な場合、在学中いつでも利用できる授業である。 |
| ディプロマ・ポリシー(DP) | 1. 東アジア地域に敬意を持ち、地域的特性の深い理解に基づいて自らの問題意識を位置づける能力。          |   |   |  | ◎  | ◎   |                                      |  |
|                | 2. 独自に問題を立て、研究を遂行して成果を生み出すことができる自立的な研究能力。                |   | ◎   | ◎  |  | ◎   |                                      | ◎  |
|                | 3. 研究者として求められる研究行動規範を正確に理解し、研究行動規範に沿って研究を遂行し成果を表現する能力。   | ◎   | ○   |  |  | ◎   |                                      |  |
|                | 4. 研究成果が独創性を持つことで人類の知識蓄積に寄与する能力。                         |   |   | ○  | ○  | ◎   |                                      |  |
|                | 5. 研究成果を論理性・首尾一貫性のあるものとして記述・表現する能力。                      |   | ○   | ◎  |  | ◎   |                                      | ○  |
|                | 6. 同じ研究領域の既存研究について正しい理解を持ち、その成果と課題との関連で自己の課題・成果を表現できる能力。 |   | ◎   | ○  | ○  | ◎   | ◎                                    | ○  |
|                | 7. 拳証と根拠づけに関して、適切な手段・方法を用いる能力。                           |   | ◎   | ○  |  | ◎   | ◎                                    | ○  |